

## 説明書（手術・麻酔）

私は、患者 様の手術・麻酔について次のとおりに説明しました。

### 1.現在の病状・手術の必要性・今後の見込み。

慢性中耳炎による難聴があります。鼓膜穿孔とともに、術前の聴力検査の結果から音を伝えるための小さな骨(耳小骨)が傷害されていると思われます。手術的治療により症状の改善をめざすには、鼓膜穿孔を修復すると同時に耳小骨の再建が必要と考えられます。手術の結果、聴力の改善と耳漏の消失が期待されます。

### 2.手術の名称・方法

#### 全身麻酔下鼓室形成術

手術用顕微鏡を用いてすべての手術を行います。手術の目的は①鼓膜を再生させ鼓膜穿孔を治します。鼓膜再生の材料として耳の後ろにある側頭筋の表面の膜（筋膜）を用います。これを元に生きた鼓膜が再生されます。人工物を用いることはありません。②鼓膜を再生させることにより正常な中耳腔が出来上がり、中耳炎が治癒されます。耳漏も停止します。③鼓膜に連なる音を伝えるための小さな骨(耳小骨)の傷害を改善させます。④鼓膜の再生と耳小骨の再建により聴力の改善が期待されます。聴力の改善の程度は鼓膜穿孔の大きさと耳小骨の傷害の程度により差があります。⑤耳小骨の再建には患者さんの耳介軟骨の一部を用います。

皮膚切開は耳の後ろに行い、術後目立つことはありません。手術のために髪の毛を切ったり、剃ったりすることはありません。

術後 1～2 週間で鼓膜の再生が完成します。時に再生が遅延することがありますが、多くの場合感染によるものです。鼓膜の再生の状況に応じ通院の頻度が決まります。それに伴い原則として聴力が改善してきます。聴力の改善は1ヶ月から数ヶ月の間に認められるようになります。

手術は院長自らがを行い、全身麻酔は麻酔科専門医が行います。

手術時間は1時間半前後。麻酔時間は2時間半前後です。

### 3.上記に伴う合併症の可能性・危険性

①術直後の耳鳴・めまい：手術の操作の影響が内耳に及び起こります。頻度が高いものではありません。一過性のものがほとんどです。

②味覚障害：中耳を味覚の神経が通っているために、手術操作が及び味覚障害が起こることがあります。もともと中耳炎のために味覚の神経が傷害されている場合もあります。味覚障害が起こらないように慎重に手術します。病変の処理のため味覚の神経を切らざるを得ない場合がまれにあります。神経が切れない限り障害は一過性のことがほとんどです。

③切開創の感染：適切な術後処置を行うことにより感染を起こさないようにします。

④鼓膜の再穿孔：鼓膜の再生中に小さな穿孔が起こることがありますが、外来治療で閉鎖します。大きな鼓膜穿孔が起こることはまれです。その場合には外来で手直しの手術を行うこともあります。

平成 年 月 日

小林耳鼻咽喉科内科クリニック院長  
小林 謙